へ遠13
1977

振鷺亭著作

大吉屋茂兵衛
かくれ家の茂兵衛

# 籤本

全三冊

仙鶴堂發行

歌川美丸画

大吉屋茂兵衛
大凶 四 於三
かくれがの茂兵衛

# 籤本浮世繪抄

全三冊

第一 末吉

## 火水未濟時

おきえ火とあふくろーみいくせのさいるんふあひさるみぐうきくるんるんをして世の中をうろうろする時あり

## 鴛鴦離東西

ちりぐりのつびえるれ数蔵会へふうぬるひぶけるくむーつのるすみて東西ふえるれるげきうるすーをうど

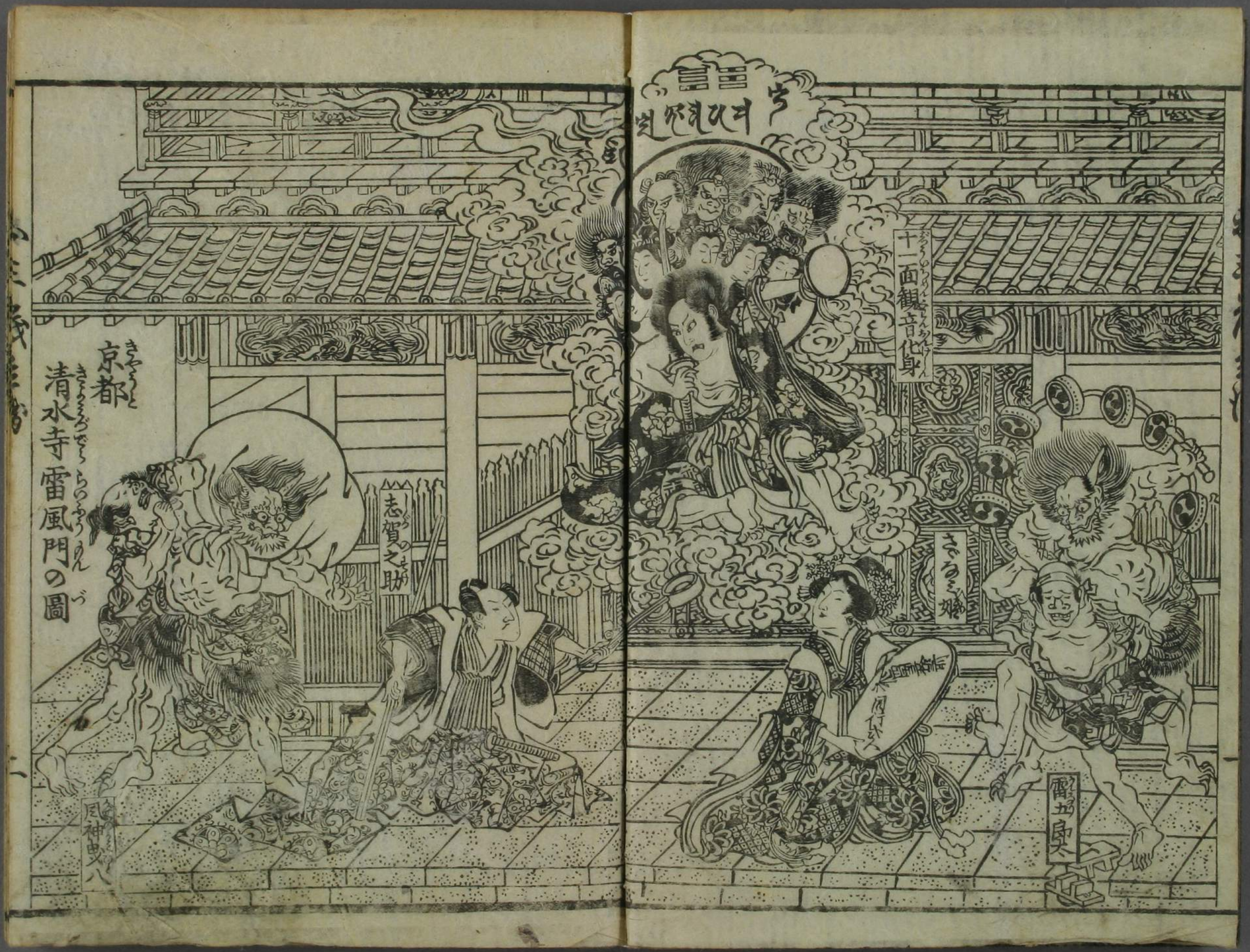
## 良工磨名鏡

如うらうこの名人ふあってらくうんくつの色心のうぐみをうぶき出されちうきんてへぢくうのあまれをあるふーふうぬえるさく変ゆたちうをまるーしんきあつせーしてゆくを変めでーくさうゆるる紙ーるを

## 陰陽應遇春

文化十年癸酉
春新板繪草紙

振鷺亭述


十一面観音化身
さぐろう姫
雷五郎
京都
清水寺雷風門の圖
志賀の之助
風神吳八

女雛
錠前のかさん

空錠の仁右衛門
かりの名賣た赤松九郎満則と
ぶらあけろさ

瀧川
武者之助
時忠
官
禄
絹
大吉屋
茂兵衛
西川
祐
近
法
橋
工
画
東
山
殿
泉州堺天下
茶屋
粉薬紙

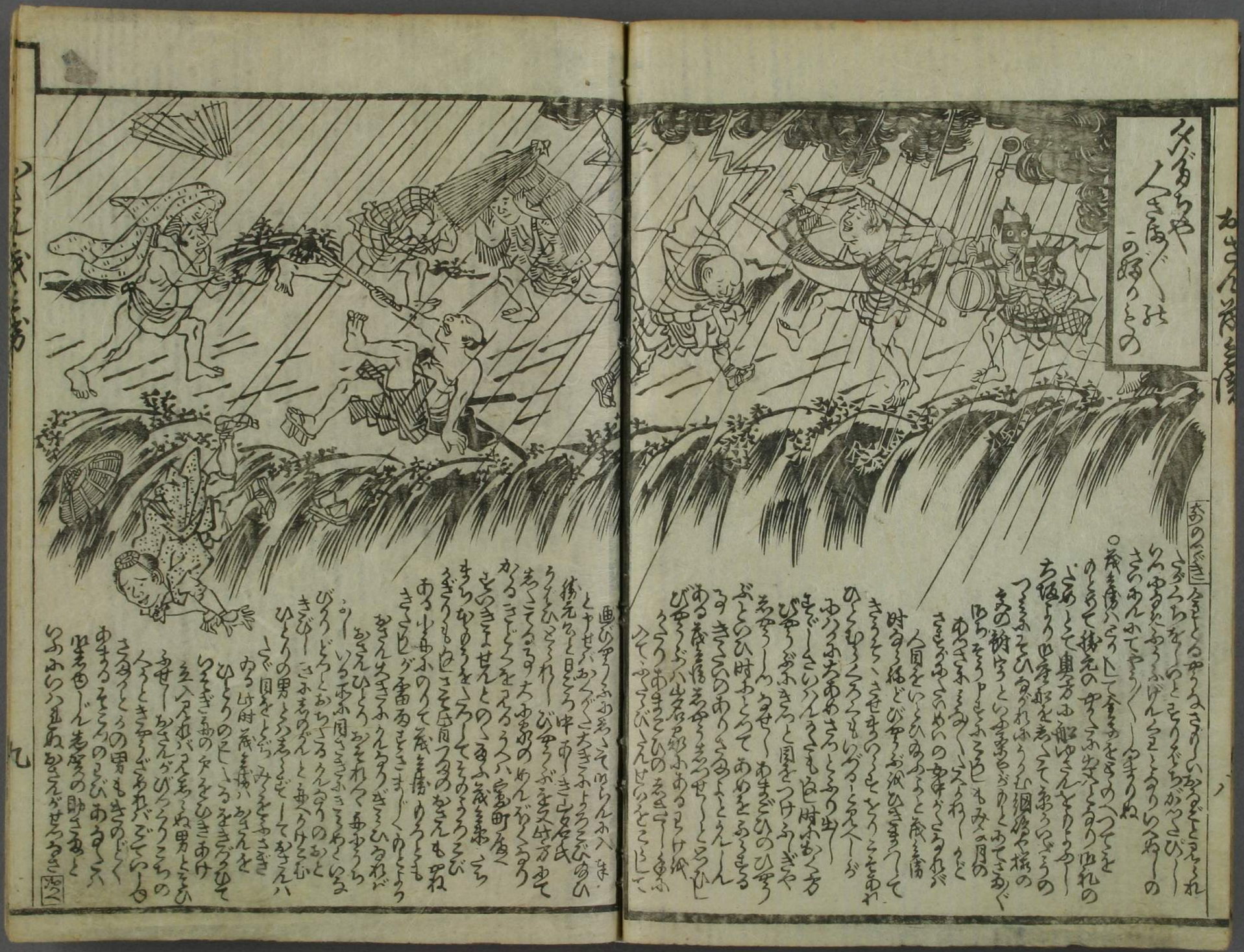
つぎ

せわくろう
寺僧ら伺ふ
うとなをもあつまるあそ
ゑ〻ふそのをををはけうは
とるあとあさんうけうは
二人をういわりと人目らわと

▲三井ちのうねもとのわを
はくをうりさをとくさもるく
あちゆたくり

卜筮

諸名家書画張交品定
大吉屋茂兵衛
大経師
水
九



久ゞ方らや人さ角ぐみ
この踊りらの

つゞき さいせんと世帯紙者のぶおんみのうへつまそふ をのとるからもこれまでたのドはあつしまかせぬと いかにおかぎし安茂兵衛のかどをえんドクりくるおふ くあしてきをねばおわうて人目にかゝらぬと おかくさんどあわりあわびやうぶひきまかし そわくいゞろおさんがかれでゞろう めぐらしさんとの茂兵衛 ⧗

⧗ ちると えて つけ る びやう ぶの うち まつと おさんが ちやうらん ずんぐり やまへ わやちすくまへ ともさとくは そのだ紙

うけおち しけて ぐそむく おさん顔姫 あつて どわらきを もとをそふ 茂兵衛 ようしみ ぶゞら あやしまり さらぶゞろ ざらうへまへ うかしふ 百両の金紙ぬさと とう取りやうその身の うへへうりくるろへ 女のうちの おわりあひと いひ又は二人のびやうぶの うちあけていはれの いひまかふ 四十両のふぎふ 茂ぶをいかまとといひこれとの せめもおれさらのぞう

次の表のをひ 茂兵衛おもてざいのまへしまた へしるの 老殺のおさんがころへしあるまへんド ある日まさる兵衛のさしふゆきそてるわらぶひあれひふ めのまそくるのしもころかれとおするうちろしぶゞし兵ベ ▲

▲うらつゞき ころをまと いへばおさん こそおりて おんまとこころに みつぷの うぶひあり そのこれの ちつぷを さけて つれて ちひのめぐ

次へつゞく

# 文化十歳癸酉春新版稗史目録

安達原氷之姿見 全六冊
山東京傳作
十返舍一九作
海陸西國往來 全三冊
歌川豊國画
歌川義丸画

東与四郎
山東京山作
振鷺亭作
浪花次郎作
戻駕籠故郷錦繪 全六冊
前歌川國貞画
後歌川國満画
岩大山 全三冊
歌川國丸画

十返舍一九作
菅原流清書草紙 全六冊
勝川春亭画
大吉屋茂兵衛
大山四郎三
鐵本浮世繪抄 全三冊
歌川美丸画

曲亭馬琴作
皿屋鋪浮名染著 全六冊
鳥居清峯画
古今亭三鳥作
昔語本田始 全三冊
歌川國直画

浮世猪之助
尾上伊太八
式亭三馬作
二枚續吾嬬錦繪 全六冊
歌川國貞画

山東庵主人著
骨董集 上編大本 四冊
來酉秋出板仕候

談洲楼焉馬老人著
花江戸歌舞妓 年代記 後篇 全部十冊
勝川春亭画圖

寛永元甲子年から文化八辛未年迄百八十八年はあひだ三芝居狂言名ぐさの役ごとに役者初ぶたいの年と名人上手家の狂言所作せりふ藝評古人乃至俳優又役者後進ひいきの人々迄狂言の考ふるところ〳〵くのぶる昔物今ふ見さうでう〳〵

式亭三馬作
日高川清姫物語 全六冊
歌川國直画

式亭三馬作
初夢富士見曽我 狂言よみかた 袋入 二冊
談洲楼焉馬老人著
勝川春亭画圖

書林 地本問屋 江戸通油町 偃鶴堂 鶴屋喜右衛門版